

福居誠二教授略歴・主要業績



一 略 歴 一

学 歴

- 1974年3月 大阪外国語大学デンマーク語学科卒業 文学士
1974年9月 デンマーク王国コペンハーゲン大学文学部音声学科入学
1977年6月 同学科 B3 (副専攻試験3) 修了

職 歴

- 1975年9月～1977年3月 デンマーク王国コペンハーゲン大学文学部音声学研究所研究助手
1978年4月～1985年3月 大阪外国語大学デンマーク語学科非常勤講師 (言語音声研究)
1981年4月～1991年3月 神戸YWCA学院専門学校日本語教師養成学科非常勤講師 (音声学、対照言語学)
1982年4月～1983年3月 大阪外国語大学二部国語国文学科非常勤講師 (日本語音声)
1985年4月～1986年3月 大谷女子大学文学部英文科非常勤講師 (英語音声学、LL)
1985年4月～2007年9月 大阪外国語大学デンマーク・スウェーデン語学科非常勤講師 (言語音声研究、研究外国語・スウェーデン語、スウェーデン語研究、デンマーク語研究、北欧語特殊研究、等)
1986年4月～1990年3月 聖和大学短期大学英語科専任講師 (講読、音声学、言語学、英語学、研究演習)
1989年10月～1991年3月 大阪外国語大学留学生別科日本語日本文化研修留学生科目非常勤講師 (発音矯正)
1990年4月～2000年3月 聖和大学短期大学部英語科助教授 (講読、音声学、言語学、英語学、研究演習)

- 1991年4月～2007年9月 大阪外国語大学留学生日本語センター日本文化研修留学生科目非常勤講師（発音矯正）
- 2000年4月～2002年3月 聖和大学短期大学部英語科教授（発音クリニック、英語音声学、LL 演習）
- 2003年4月～2009年3月 聖和大学人文学部グローバル・コミュニケーション学科教授（英語音声学、英語、日欧比較文化論、英語演習、基礎演習Ⅰ、Ⅱ、研究演習、トピック・スタディーズ、等）
- 2007年10月～2009年3月 大阪大学外国語学部非常勤講師（北欧語学特殊研究）
- 2007年10月～2014年3月 大阪大学日本語日本文化教育センター非常勤講師（日研生等上級会話）
- 2008年4月～2010年3月 神戸女学院大学非常勤講師（日本語学入門）
- 2009年4月～ 関西学院大学人間福祉学部教授（英語講読）
- 2009年4月～2013年3月 聖和大学人文学部非常勤講師（英語音声学、日欧比較文化論、トピックスタディーズ）

－学会及び社会における活動等－

- 1977年11月～ 日本音声学会 会員
- 1984年1月～ 近畿音声言語研究会 会員
- 1991年10月～ 日本音響学会 会員
- 2010年8月～ 外国語教育メディア学会 会員
- 1993年9月～ 近畿音声言語研究会 世話人
- 1995年4月～1997年3月 日本音声学会 企画委員
- 1995年10月 第9回日本音声学会全国大会 A 会場司会
- 1997年9月 第11回日本音声学会全国大会 B 会場司会
- 1997年5月～ 西日本デンマーク商工会議所 特別会員

－主要業績－

著 書（翻訳等を除く）

1. 『ことばを学ぶ人の発音クリニック』（単著）SK リンケージ、2000. 12.
2. 『日本語はどんなことば 初歩の日本語概論 -音韻と表記編-』（単著）新生会、2008. 4.
3. 『English for Human Welfare Studies』（共編著）朝日出版社、2016. 1.

論 文

1. 「日本語の閉鎖音の延長と短縮による促音・非促音としての聴取 Perception for the Japanese Stop Consonants with Reduced and Extended Duration」『日本音声学会会報』159号 THE BULLETIN、p.9-p.12. 1978. 12.
2. 「ドイツ語オランダ語デンマーク語の唇摩擦音 Variants of Labial Fricatives of German, Dutch and Danish」『日本音声学会会報』162号、p.5-p.8. 1979. 12.
3. 「習得困難な外国語音の学習 -音声分析機器利用の現状と改革案」『視聴覚資料の外国語授業への有効な取入れ』大阪外国語大学、p.97-p.118. 1980. 8.
4. 「聴覚教材の品質 Some Remarks on the Quality of Recorded Speech Sound -With Reference to Language Learning-」『視聴覚メディアのシステム化と外国語授業の体系化』、p.75-p.90. 1981. 8.
5. 「一般音声学テープ教材プログラム」『視聴覚メディアのシステム化と外国語授業の体系化』、p.23-

- p.36. 1981. 8.
6. 「一般音声学テープ教材－子音編・閉鎖音－」『視聴覚外国語教育研究』5、p.59-p.70. 1983. 2.
 7. 「On the Secondary Cue for the Perception of Geminate Stop Consonants in Japanese (日本語促音知覚の二次的キュー)」『視聴覚外国語教育研究』6、p.59-p.71. 1983. 8.
 8. 「デンマーク語の半強勢についての考察 Some Remarks on the Danish Secondary Stress –the case of ‘Fremmedarbejder’-」『視聴覚外国語教育研究』7、p.63-p.74. 1984. 3.
 9. 「日本語話者による英語の強調の発現形」『聖和大学論集』14号、p.91-p.101. 1986. 12.
 10. 「スウェーデン語音声教材の作成」『視聴覚外国語教育研究』10、p.31-p.35. 1987.
 11. 「近畿方言の数字列の音調 Tonal Features of Numeral Sequences in Kinki Dialect」『音声言語』IV、p.41-p.67. 1990. 12.
 12. 「音調による数字列の区切り Grouping of Numeral Sequences by Pitch Patterns」『聖和大学論集』18、p.27-p.34. 1990. 12.
 13. 「デンマーク語の諺の語彙について A Study on the Vocabulary of Danish Proverbs」『IDUN.』X、p.81-p.100. 1992. 4.
 14. 「女子短大生の友人についてのアンケート調査 The Distribution of Female Students’ Friends」『大阪外国語大学コミュニケーション研究』II、p.77-p.96. 1992. 9.
 15. 「デンマーク語話者の日本語の韻律に見られる母語の干渉」『日本語の韻律に見られる母語の干渉』III (文部省重点領域研究「日本語音声」平成4年度研究成果報告書)、p.81-p.112. 1994. 11.
 16. 「日本語のローマ字表記－音声学的長音の書きかた調査－ Alphabetising Problems of Japanese Sounds with a Special Reference to the Notation of Phonetically Long Vowels」『聖和大学論集』24 B、p.73-p.83. 1996. 12.
 17. 「ローマ字による長音表記 特にオ列長音に注目して Romanisation of long ‘o’ and other Japanese vowels」『聖和大学論集』26 B、p.89-p.102. 1997. 12.
 18. 研究ノート「アメリカ人の類出名に対応するデンマーク人名の形態」A Research Note “On the Names of the Danes Relative to the English Names Which were Popular in the USA in the 40’s”『聖和大学論集』27 B、p.125-p.138. 1999. 12.
 19. 「音声言語の情緒評価 Quantising Emotional Value of Spoken Languages」『聖和大学論集』28 B、p.101-p.111. 2000. 12.
 20. 「デンマーク語はメロディーだけで認識できるか－ローパスフィルターを用いた知覚実験－ Identification Test on LP-Filtered Speeches –Are Danish Speech Melodies Recognized by Japanese Learners?－」『IDUN.』14、p.63-p.82. 2001. 3.
 21. 「料理の命名法について Naming Patterns of Food: Enigma or Jargon?」『聖和大学論集』30 B、p.1-p.13. 2002. 12.
 22. 「ネパール文化交流旅行に兆す変化－2007年春ネパール調査旅行とその後－Expected Changes in the Cultural & Educational Exchange Programme in 36 B、p.287-p.297. 2008. 12.
 23. 「Developing intercultural communicative competence through video web-chat and international student exchange sessions」(共著)『LET 関西支部研究』13、p.125-p.145. 2011. 3.
 24. 「Developing intercultural communicative competence through guest speaker sessions－Two case studies」(共著)『Human Welfare』第3巻第1号、p.23-p.52. 2011. 3.
 25. 「Guest lecturer sessions as springboards for creativity」(共著)『JALT 2010 Conference Proceedings』、p.293-p.300. 2011. 10.

